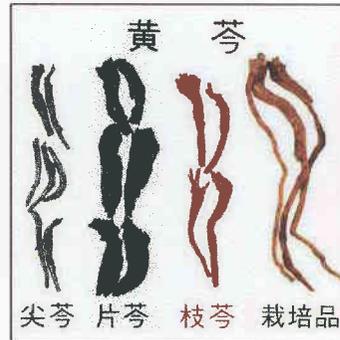


【生薬名】黄芩<sup>㊦</sup> SCUTELLARIAE RADIX

【起源植物】コガネバナ *Scutellaria baicalensis*

【科名】シソ科 LABIATAE



【別名】コガネヤナギ黄金柳、黄芩、黄金花

【薬用部分】周皮を除いた根

【主成分】フラボノイド（バイカリン、バイカレイン、オウゴニンなど）  
ステロール、糖類

【薬性】気味は苦寒、帰経は心肺胆大腸小腸に属す

【効能】●清熱燥湿・瀉火解毒・安胎

●消炎解熱解毒薬として、心下痞を主治し、胸脇苦満、心煩、煩熱下利を兼治する

●解熱、利尿、抗菌、抗ウイルス、抗真菌、降圧、中枢抑制（鎮痛・鎮静）、脂質代謝改善、肝障害予防、抗消化性潰瘍、抗炎症、抗アレルギーなどの作用が認められている

●動物実験で卵白アナフィラキシー反応に対して顕著な防御作用を示す、ヒスタミンやSRSなどのメディエーターの遊離を抑制する。この作用はバイカリンより、そのアグリコンのバイカレインの方が強い

●抗菌、抗真菌作用

●動脈硬化防止作用

●1日1.5～9g

【出典】●黄芩 苦寒、肺火を枯瀉し、大腸を清し、湿熱皆可なり。（薬性歌）

【備考】●清熱剤のうちでも冷やす作用が穏やかなので使用しやすい

●単独ではまず用いない、漢方処方に配合

【処方例】●小柴胡湯、半夏瀉心湯、黄連解毒湯、当帰散、黄芩湯など